



町民の皆さんに代わって町の予算を審議する平成27年度予算等審査特別委員会が、3月6日から5日間の日程で開催されました。
特別委員会では、平成27年度一般会計予算ほか8会計と、予算に関連する議案15件が審議され、3月12日の本会議でいずれも原案のとおり可決されました。

平成27年度予算等審査特別委員会報告 審査所見

平成27年度木古内町一般会計予算及び各特別会計等の予算は、新幹線関連整備事業費として、新幹線駅駐車場・JR木古内駅東西駐車場・都市計画道路環状線通・観光交流センターをはじめとするハード事業や開業に向けたソフト事業を含め約13億6,000万円など、第6次木古内町振興計画の2年目となる政策予算も含め、約95億8,200万円という2年連続した大型の予算編成となっています。（※予算総額は、減価償却費を除いた額となっています。）

一般会計については、歳入不足となる約2億4,000万円は財政調整基金から繰り入れており、将来への負担となる町債が約9億円と歳入総額の約17%を占めています。

町債に対しては、国からの地方交付税による一定程度の支援もあることは理解しますが、国の補正予算による地方経済を回すための財政支援策となっている地方創生交付金や経済対策交付金を有効活用し、当町のかかえる諸課題の解決に向けて鋭意努力されるよう要請します。

また、職員の人件費独自削減の廃止等により、今後の財政収支計画に支障を来すことのないよう、慎重な財政運営を強く要望します。

以下、2点について意見を付けました。

1. 一次産業の振興について

農業については、新規事業並びに継続事業等により、農業者の所得向上に向けた施策をフル活用し、経営の安定と品質向上・ブランド化を図り、担い手となる後継者に対し魅力ある経営基盤づくりのため、関係機関と連携を密にし、積極的な事業実施を図られるよう強く要望します。

漁業については、捕る漁業から育てる漁業に転換してきましたが、さらなる養殖事業の拡大策としてワカメ養殖施設の更新や天然ヒジキの養殖技術の導入、既存のウニ・アワビの人工種苗購入事業等による資源管理型漁業により漁家の収入増を図り、後継者に対し魅力ある事業展開により活気ある浜を取り戻すための施策を今後とも十分な検討を要望します。

2. 予算関連資料の有効活用について

各課から提出された予算関連資料は多岐にわたっていますが、作成に対する指示・連携により遅配も散見されるほか、説明に際しては有効に活用できるよう、各課において次年度に向け研究されるよう特に要請します。

総額
95億
8,200
万円

二年連続の大型予算を審査

平成27年度全9会計予算を可決